

宅配ライダーが安全運転競う

第18回デリバリー業安全運転競技会

警視庁・SDA

宅配バイク乗務員が安全運転技術競う―警視庁交通部と、デリバリー関係企業の宅配バイク乗務員に向けて交通安全教育を行っている全日本デリバリー業安全運転競技会（SDA／浅野秀則理事長）の共催による、東京都内に在住または勤務する宅配バイク乗務員の安全運転競技会が、東京都交通安全協会の後援を得て2021年11月5日、東京都世田谷区の警視庁交通安全教育センターで開催。参加した乗務員たちは日頃の講習会や研修会、業務で培った安全運転技術を披露した。

「デリバリー業界の交通安全の輪」拡大へ

警視庁とSDAの共催―バリー業界の交通安全意による同競技会は、デリ―識および安全運転技術の

向上を目的としたもの。2004年から毎年開催されてきており、19年までは夏に行われていたが、20年は新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から11月下旬に延期して開催、21年も引き続き

き11月の開催となった。今回で18回目を迎えた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により在宅勤務や会食自粛が増えたことで、宅配へのニーズと宅配バイクによる業務は依然活発となっている。このため、なおさら乗務員の交通ルール順守と安全運転技術向上を図る

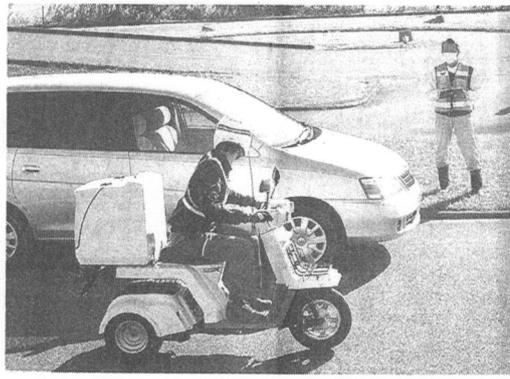
開会式であいさつに立つ警視庁交通部交通総務課の作道課長



この競技会が、より一層重要度を増している。競技会に先立ち開会式が行われ、主催者を代表して、警視庁交通部からは交通総務課の作道英文課長が、SDAからは村川淳一理事がそれぞれあいさつし、選手を激励。



競技のスタート風景。SDAの村川理事（写真左）の旗振りでコースインする選手



競技のようす④法規走行競技⑤中低速車両感覚走行競技



作道課長はあいさつの中で「この競技会により、デリバリー業界の交通安全の輪がより一層広がっていくことを期待する。本日参加する皆さんは模範運転者としての心構えと優れた運転技術を身につけた各社の代表であるとうかがっているが、この競技会を通じてより深く安全運転の基本を見つめ直し、常に安全運転に徹するなど自らが模範運転に努めるとともに同僚の方々にも安全運転を呼び掛けてほしい。また、SDAの皆さんには従業員への安全は会社で守るという意識を一層高めて、今後も交通事故防止に向けた様々な取り組みに協力を願う」旨を述べた。

村川理事は「皆さんはデリバリーのますますの

発展に伴い忙しいと思うが、職場の看板を背負って走っていることを深く認識し、業界全体の安全管理体制の向上にこれからも尽力してほしい」と述べた。

出場選手は、SDAに加入している会員デリバリー企業から推薦を受けた、東京都内に在住または都内店舗に勤務するデリバリーバイク乗務員。

閉会式で締めくくりのあいさつを行うSDAの宮下副理事長



今回参加したチームは▽銀のさらA（祖師谷店、高円寺店、ファンタイン麻布高輪店各1名）▽銀のさらB（本部3名）▽サルヴァトーレクオモ（エリアデリバリー3名）▽セルート（本部3名）▽ナポリの寮A（文京店2名、神宮前店1名、蒲田店1名）▽ナポリの寮B（研修生、吉祥寺通り店、田端店各1名）▽ピザラ（等々力店、目黒本町店、神田店、事業本部、四ツ谷店各1名）―の全7チーム・24名。

競技は▽法規学科テスト▽法規走行競技（法令を遵守し、安全かつ円滑に走行する能力を審査）▽中低速車両感覚走行競技（車両感覚を把握し、車両特性に応じた走行や安全での的確に操作する能力を審査）―の3項目を審査。選手らは日頃の業務や講習会、研修会で培った自身の安全運転技術を確かめるように競技に臨んだ。



警視庁白バイ隊員による模範走行

この後には表彰式を開催。団体部門の成績はチームの平均点で競われ、上位1〜3位には警視庁交通部長賞として賞状と副賞が贈られた。個人部門は、各選手の総合得点上位1〜6位にSDA理事長賞として賞状とメダル、副賞が贈られた。

閉会式の締めくくりにあいさつに立ったSDAの宮下雅光副理事長は「今日集まってくれた皆さん、そして全国のデリパリースタッフの仲間たちは、大変な責任をもって業務に努めている。今日の競技会で得たもの、体験したものを職場に戻って伝え、交通事故撲滅に日々取り組んでほしい」旨を述べ、選手たちを称えた。

◆大会成績（敬称略）
 【団体部門】①セリート②銀のさらB③銀のさらA【個人部門】①赤塚恭兵（ピザラ）②大目颯真（セリート）③戸邊隼輔（銀のさらB）④岸田修一（ピザラ）⑤戸邊涼介（銀のさらB）⑥小友俊樹（銀のさらA）



団体優勝のセリートには警視庁交通部長賞が授与

個人優勝の赤塚恭兵選手

「三輪バイクで事故再現」開催

スタントでリアルに競技日程終了後には、原付三輪バイクなどを使ったスタントマンによるスケアード・ストリート方式（事故再現）の交通安全教室が、前回に引き続き開催された。

会場では、飛び出してきた自転車と原付三輪バイクとの衝突、四輪車が急に開けたドアとバイクとの接触、左折トラックによる巻き込み、直進バイクと右折四輪車との衝突など、リアルで衝撃的な様々なシチュエーションの交通事故を再現。選手らは真剣な眼差しで見入っていた。



競技終了後には前年に引き続きスタントマンによるスケアード・ストリート（事故再現）方式による交通安全教室を開催。（右上から）脇道から飛び出してきた自転車との接触事故、バイクと助手席のドアを開けた自動車との接触事故、左折トラックによる巻き込み事故、目的地を探しながら走っていたバイク乗務員の前方不注意による追突事故、右折乗用車とトラックの死角から出てきた直進バイクとの右直事故がリアルに再現された